

機関番号：32641

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19401029

研究課題名 (和文) 中国新疆のウルムチ・トゥルファン両博物館所蔵非漢文古文献の研究

研究課題名 (英文) Study on the Old Manuscripts Written in Scripts other than Chinese Preserved in the Turfan Museum and Urumchi Museum, Xinjiang, China.

研究代表者：梅村 坦 (MEMURA Hiroshi)

中央大学・総合政策学部・教授

研究者番号：90124289

研究成果の概要 (和文)：研究対象は、ベゼクリク千仏洞から 1980～1981 年に出土した非漢字の古文献約 600 点であり、その大部分は未公開の断片類である。使用される文字はウイグル文字、ソグド文字、ブラーフミー文字を中心とし、言語は古ウイグル語、ソグド語、サンスクリット語、トカラ語、漢語などにおよび、形式には写本、印刷があり、内容は仏教文献を中心として契約や公文書、詩、手紙などの俗文献に至り、10～13 世紀頃のトゥルファンの複合文化を浮き彫りにする第一級の資料群であることが判明した。

研究成果の概要 (英文)：Most of the subject, the old manuscripts written in scripts other than Chinese unearthed from Bezeklik in 1980 and 1981 are composed of unpublished fragments, which account about 600 pieces. Main scripts are old Uighur, Sogdian, and Brāhmī, languages are Uighur, Sogdian, Sanskrit, Tocharian or Chinese etc., which write down Buddhist or Manichean text, secular text e.g. contract, official document, poem, letter etc. including printing. Such a group of complex texts is the first-class materials which clearly bring out the real existence of multiple culture of Turfan area between 10th and 13th centuries.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2008 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2009 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2010 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
総計	12,900,000	3,870,000	16,770,000

研究分野：中央ユーラシア史

科研費の分科・細目：人文学 B・東洋史

キーワード：トゥルファン・ベゼクリク・ウイグル・ソグド・ブラーフミー・古文書・国際共同研究

1. 研究開始当初の背景

(1) 未公開資料の存在

1980～1981 年にベゼクリク千仏洞から出土し、現在トゥルファン博物館所蔵の古文献のうち、漢文に関しては中国に於いて整理・研究が進められていた。非漢文古文献のうち、大型のものや比較的内容が確定しやすい整

った形式のウイグル文・ソグド文の宗教文献、俗文献はすでにある程度研究され、あるいは図版も公表されたものがあつたが、大多数は未公開のままであった。

(2) 学術国際協力の必要性

上記の資料に関しては、全体像の把握の上になつたカタログや、研究資料としての学問的

整理の成果を公開する用意はされていなかった。所蔵するトゥルフアン博物館とウルムチの研究者は、この非漢文文書群を独自に整理し、研究を深める意思はあっても、実行にうつす組織をつくれないう状況であった。

従来、中国、ヨーロッパ、日本の研究者が個別に特定の資料や写真に接近することはあったが、先端的な知識に基づく協力態勢を組織し、一つの資料群としてこれらを取り扱って本格的研究の材料としての価値を定着させる試みもおこなわれてこなかった。

文書群の文字・言語・内容の多様さは、個人レベル、一国レベルの研究の範囲を超えていることは事前調査により明らかになった。

2. 研究の目的

(1) 国際共同研究組織の形成

ウルムチの自治区博物館とトゥルフアン博物館が実行できない研究組織を、たとえ短期的なものであっても、むしろ国際的な環境のなかで、まずは形成し、将来の国際的協力研究態勢に道をつけること。

(2) 当面の目的と将来の目標

①本研究課題の終わる 2010 年度までが当面の目的期間である。その間に、古文献の古文書学的データを可能な限り調査収集し、国際共同研究がスムーズにおこなえるよう準備し、基礎的な読解研究を行い、資料研究の基礎であるカタログ作成を行うこと。

②本研究課題が提供する研究カタログ（資料一覧）にもとづいて、中国側が中国において何らかの形で出版をおこない、世界にむけて全データを公開することが望まれる。これは将来 IDP（国際敦煌プロジェクト）との連携などによって、世界のユニオンカタログ形成に寄与することが期待される。

3. 研究の方法

(1) 国際共同研究組織の運営

①経緯：ウルムチとトゥルフアン研究者・指導者は、国際共同研究の形でカタログ整備、研究の進展を目指す意思を、とりわけトゥルフアンの当事者が強く固めた。

②組織：トゥルフアン博物館（吐魯番学研究院）を中国側の柱とし、これに日本の本研究課題チームが研究・運営の推進力を与え、ドイツのトゥルフアン研究室に関係する研究者群が協力する態勢を整えた。

③実行：三国にそれぞれ代表者をおき、その下に研究メンバーを組織した。主として電子メールによる通信と、とくに日本チーム（本研究課題）メンバーによるトゥルフアン訪問・調査の繰り返しによって意思疎通とデータ収集・整理をすすめた。

(2) データの共有化

研究メンバーに限って公開するウェブサイト立ち上げた。ここに写真を含む全デー

タを、日本語、中国語、英語でアップロードし、随時の閲覧と検索を可能とした。メール上で議論をして読解の基礎データをフィードバックし、データの共有化を実現した。この具体的な作業は、一貫して研究協力者、鈴木健太郎氏の努力に負うところ大であった。

4. 研究成果

(1) 国際共同研究の成果

日本の共同研究者、中国、ドイツを中心とする海外の研究協力者、研究メンバーたちは共同研究の実績をあげた。その成果は個別論文の形で公表されたもののほかに、上記ウェブサイトのデータの中に個別の古文献資料ごとに集積され、整理されている。

(2) データベースのとりまとめ

①カタログ：最終年度までにデータベース化された共同研究の成果は、『1980～1981 年ベゼクリク出土非漢文文書目録（初稿）』（The Non-Chinese Manuscripts Excavated from Bezeklik in 1980-1981: A Catalogue, First Draft）としてプリントアウト可能な形式に整えた。

しかし、中国所蔵の資料は中国における優先出版が義務付けられているため、この成果そのものは当面、研究グループ内部の資料としてのみ取り扱わなければならない。

②将来の出版とユニオンカタログ：中国における出版のための基礎的なデータは本課題研究作成のデータベースによって整理されているが、それをいかなる形で書籍の形にするのかは、中国側に任されている。公刊の暁には、データベースそのものも公開の条件が与えられ、また将来は IDP などとの連携によるウェブ上のユニオンカタログに結びつく、そうした環境がつけられたと言ってよい。

(3) 当初計画の変更点

研究計画の当初は、トゥルフアン所蔵の古文献の整理・研究のほかに、ウルムチ博物館所蔵の古文献研究や、過去に存在したが現在では行方不明となっている古文献の探索も視野にいれ、研究課題のタイトルもそれらの目的を反映していた。

しかし不幸にして 2009 年 7 月 5 日のウルムチ事件から半年以上にわたってインターネットが不通となり、新疆側との詳細な連携が一切とれなくなった。これが主たる原因となって、最終的な研究対象はもっぱらトゥルフアン所蔵の非漢文古文献群のみに限定することとした。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 38 件）

- ①松井太「西ウイグル時代のウイグル文供出命令文書をめぐって」弘前大学人文学部『人文社会論叢』人文科学篇：24、2010年、pp. 25-53. 査読無。
- ②梅村坦「ひとときの休息：中国“シルクロード”の茶」『民族学』131、2010年、pp.89-105、査読無。
- ③庄垣内正弘「ロシア所蔵のウイグル文『入阿毘達磨論』注釈書断片」*Contribution to the Studies of Eurasian Languages*, 15, 2009, pp.81-118, 査読有。
- ④MITOMO Kenyou, “Present-Day Social Problem and its Solution by Buddhism”, 『法華経研究』35、2010年、pp.1-12, 査読有。
- ⑤YOSHIDA Yutaka, “Visa’Sura's corpse discovered?”, *Bulletin of the Asia Institute*, 19, 2009, pp.237-242, 査読有。

〔学会発表〕(計 29 件)

- ① UMEMURA Hiroshi, “On the International Project for Non-Chinese Manuscripts from Bezeklik”, Turfan Forum on Old Languages of the Silk Road, 24 Oct. 2010, Turfan, China.
- ②MATSUI Dai, “Taxation Systems and the Old Uigur society of Turfan in the 13th – 14th Centuries”, *Collegium Turfanicum* 50, 23 Jun. 2010, Berlin, Germany.
- ③三友健容、「『婆沙論』成立の諸問題」日本宗教学会、2009年9月12日、京都大学。
- ④ YOSHIDA Yutaka, “Some More Manichaeon Paintings from Japan”, Seventh International Conference of Manichaeon Studies, 8 Sep. 2009, Dublin, Ireland.
- ⑤ MATSUI Dai, “Mongol Globalism Attested by the Uigur and Mongol Documents from East Turkestan”, 第一回アジア世界史学会大会、2009年5月30日、大阪大学。

〔図書〕(計 21 件)

- ①吉田豊(共編著)『ソグド人の美術と言語』臨川書店、2011年、pp. 2-3, 7-78, 79-118.
- ②三友健容(共著)『インド仏教史仏教学論叢』山喜房佛書林、2011年、pp. (21)664 - (47)638.
- ③SHOGAITO Masahiro (共著)『突厥語文学研究：耿世民教授八十華誕紀念文集』、中央民族大学出版社、2009年、pp.426-434.
- ④MATSUI Dai (共著)『The Early Mongols, Indiana University, 2009, pp.111-119.
- ⑤梅村坦(共著)『宋と中央ユーラシア』中央公論新社、2008年、pp. 277-499, 514-518, 542-548.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
<http://www.fps.chuo-u.ac.jp/~umemura/turfan/> (研究メンバーのみ閲覧可)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

梅村 坦 (MEMURA HIROSHI)
中央大学・総合政策学部・教授
研究者番号：90124289

(2) 研究分担者

庄垣内 正弘 (SHOGAITO MASAHIRO)
京都産業大学・文化学部・教授
研究者番号：60025088

三友 健容 (MITOMO KENYOU)
立正大学・仏教学部・教授
研究者番号：50062865

吉田 豊 (YOSHIDA YUTAKA)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：30191620

松井 太 (MATSUI DAI)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：10333709

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

鈴木 健太郎 (SUZUKI KENTARO)
明治学院大学・文学部・非常勤講師

李 肖 (LI XIAO)
中国新疆維吾爾自治区吐魯番地区文物
局・局長 (吐魯番学研究院・副院長)

DESMOND DURKIN-MEISTERERNST
Chief, Turfanforschung, Berlin-Branden-
burgische Akademie der Wissenschaften